

「把構文」と「被構文」に用いられる 「給」の意味と論理

松村 文芳

A Dative-marker-predicate in Disposal and Passive Constructions of Mandarin Chinese

MATSUMURA Fumiyoshi

目次

- 0. はじめに
 - 0.1 朱1982の考える「与事」とは何か
 - 0.2 朱1982の「与事」の例の述語論理による表記
 - 0.3 朱1982の二重目的語文の間接目的語
 - 0.4 朱1980における「給」の説明
- 1. 現代中国語の文の述語論理による表記
- 2. ヴォイス（使役、処置、受身）の述語論理
- 3. 把構文における「給」の意味と論理
 - 3.1 “把……給”文型の“給”の表す意味と論理
 - 3.1.1 “把……給”文型の“給”が[積極性]を表すもの
 - 3.1.2 “把……給”文型の“給”が[不満／恨み／怒り]を表すもの
 - 3.1.3 “把……給”文型の“給”が[意外性]を表すもの
 - 3.1.4 “把……給”文型の“給”が[損害性]を表すもの
- 4. 被構文における「給」の意味と論理

- 4.1 “被……給”文型の“給”が「動作・行為の積極性」と「対象物の被害性の増大」を表すもの
- 4.2 “被……給”文型の“給”が「動作・行為の積極性」と「対象物の属性に対する働きかけ（影響）の増大」を表すもの
5. 「被」「把」「給」の共起する構文の論理式
6. “給”を挿入できない「把構文」
7. 結びにかえて
8. 参考文献

0. はじめに

“他把我眉毛刮下来了。”の文は「給」を加えて“他把我眉毛给刮下来了。”とすることができ、また“杯子被他打破了。”も「給」を入れて“杯子被他给打破了。”とすることができる。前者の例では「給」は「処置」の意味を強める（王彦傑1999：345）と記述され、また後者では「与事を導入する前置詞（朱1982：179）」と説明されている。このことはよく知られた事実ではあるが、これらの文中で用いられている「給」がどのような意味を表し、またどのような統語的役割を果たしているのかを総合的に論じた論考はいまだ現れていない。本稿では朱徳熙1982の中でさらりと論述されている「与事」について、その用語の意味するところを考え、それを述語論理の中に導入することにより、「給」と「把」の論理関係、「給」と「被」の論理関係、さらには「被」と「把」と「給」の重層的な論理関係を考え、それをもとにヴォイス構造がどのような論理モデルによって、解明されるかを論じる。

0.1 朱1982の考える「与事」とは何か

朱1982によれば「“給”の役割は「与事」を導入することである（p.180）」と述べ、“我给他把电视机修好了。”の例では「他」は真の「与事」である（p.181）と記述している。これを今詳しい説明を省いて、述語論理で表記すると

(述語にはダッシュを付す)

モタラス ～ガ ～ニ ～ヲ
給'[我, 他, 把' { 我, 电视机, 修好'(我, 电视机)}]
ヤッタ ～ガ ～ニ ～ヲ

関数（以下，論理式に使用される述語を関数と記す）“給’”の第二項に“他”があることがわかる。ここで重要なことは関数“把’”の項に“他”がないことである。一方“我给电视机修好了。”の文に対しては「“电视机”は本来は「受事」であるが，前に“給”をつけると，それを「与事」とみなす。(p. 181)」と説明している。そこでこの文も述語論理で表記すると

ナオス ～ガ ～ヲ
給'{ 我, 电视机, 修好了'(我, 电视机)}
ヤッタ ～ガ ～ニ ～ヲ

となる。ここでは関数“修好了’”の第二項に“电视机”があることが重要である。これは朱1982が「本来は「受事」である」と記述していることを表す。一方，“电视机”は関数“給’”の第二項にも現れている。これが朱1982が「前に“給”をつけると，それを「与事」とみなす。」と述べていることの述語論理による表記である。つまり，関数“給’”の第二項がそこだけに現れる場合は「真の与事」であり，それが，関数“給’”の第三項の関数の値を構成する項にも現れる場合は「与事とみなす」というのである。従って朱1982のいう「与事」とは三項を有する関数の第二項に現れるものである。

0.2 朱(1982)の「与事」の例の述語論理による表記

朱1982は「“給”のもう一つの用法は「受益」あるいは「被害」の意味の「与事」を導入することである。(p.180)」と述べて，次のような例を挙げている。その例とそれの述語論理による表記を次に記す。

1. 他专门给人家修理电视。(人家：受益者)

ナオス ～ガ ～ヲ

1'. 给' {他, 人家, 修理'(他, 电视)}

～テヤル ～ガ ～ニ ～ヲ

【奉仕】

2. 他常常给我开药方。(我：受益者)

書ク ～ガ ～ヲ

2'. 给' {他, 我, 开'(他, 药方)}

～テクレル ～ガ ～ニ ～ヲ

【奉仕】

3. 电影票他给你弄丢了。(你：被害者)

ナクス ～ガ ～ヲ

3'. 给' {他, 你, 弄丢了'(他, 电影票)}

～テヤル ～ガ ～ニ ～ヲ

【迷惑】

4. 他给我算错了。(我：被害者)

マチガウ ～ガ

4'. 给' {他, 我, 算错了'(他)}

～テクレル ～ガ ～ニ ～ヲ

【迷惑】

いずれの例の場合も朱1982の言う「与事」を表す成分は述語論理表記の関数“给”の第二項に現れている。従って朱1982の述べる「与事」は意味上の概念だけではなく、統語上の概念でもあると解される。言い換えると前置詞“给”という主辞(Head)が下位範疇化する項の第二の位置に現れる成分となる。

0.3 朱（1982）の二重目的語文の間接目的語

朱1982では主語になる成分は意味上、様々なものが現れることを述べ、そこで動作主と「動作の受け手」をあげた後、動作主と「動作の受け手」以外のものとして「与事」をあげている（p.95）。その「与事」が引用符“ ”で囲まれているのは他の例と異なり、「与事」成分は主語として前方に移動された後に代詞の「他」を残さねばならないということを述べたいのであろうと推測されるが、そのことについての朱の言及はない。朱のあげる例は次のものである。

1. 这个学生 我教过 他 数学。（这个学生：与事）

2. 小王 我也给 他 写了一封信。（小王：与事主语）

1の例から“教过 他 数学”の“他”が「与事」であることがわかる。一方、2の“给 他 写了一封信”から“他”が「与事」であることがわかる。従って朱の考える“与事”とは二重目的語文の二つの目的語の前のも、つまり「間接目的語」から、より広くは「受益者」や「被害者」の意を有する成分まで含んでいることがわかる。

0.4 朱（1980）における「給」の説明

朱1980では「意味上、動詞“给 d”を持つ文は「授与」を表し、前置詞“给 p”を持つ文は「奉仕」を表す。（p.158）」と述べ、さらに具体例をあげる。具体例は二種類あり、そのA類は次のものである。

1. 大夫 给 病人打针。

2. 你 给 孩子们讲个故事。

3. 我 给 你较头发。

これらの例に対して、朱は「A類の文中の“給”が前置詞であることは明らかである。(p.158)」と述べ、さらに次のB類をあげる。

4. 我 给 妹妹买了一辆车。
5. 你 给 客人沏杯茶。
6. 我 给 你打件毛衣。

これらB類に対して朱は「B類の文中の“给”が前置詞であるか、動詞であるかは判断が難しい。なぜならこの類の文では「授与」の意味がいつでも「奉仕」の意味を伴っているからである。その中のM（便宜的に間接目的語と称している）は「動作の受け手」でもあり、また「奉仕」の対象でもあるからだ。(p.158)」と説明している。後述の議論とも関連するので、ここで1と4の文を述語論理で表記し、その意味の違いを明示しておこう。

注射スル ～ガ

1'. 给' { 大夫, 病人, 打针' (大夫) }

～テヤル ～ガ ～ニ ～ヲ

買ッタ ～ガ ～ヲ イタル ～ガ ～ニ

4'. 给' { 我, 妹妹, 买了' (我, 一辆车) & 到' (一辆车, 妹妹) }

～テヤル ～ガ ～ニ ～ヲ

1'の文では【着点】を表す成分が存在しないのに対し、4'では「到'(一辆车, 妹妹)」の“妹妹”が【着点】を表す。つまり&以下の関数の値が「授与」の意味を表現しているのである。

1. 現代中国語の文の述語論理による表記

現代中国語の動詞文をその中の動詞が下位範疇化する項の数によって分類してみよう。一項述語文、二項述語文、及び三項述語文の三種類がある。まず一

項述語文とは

1. 他笑, 我哭。

のように, 述語が「他」, 「我」のごとくただ一つの項をとるものである。これを述語論理表記すると次のようになり, 関数「笑'」「哭'」が項として定数「他」と「我」をとる。

1'. 笑'(他) & 哭'(我)

第二は二項述語文である。

2. 妈妈讲故事。

この文の述語論理表記は

2'. 讲'(妈妈, 故事)

となって, これは“妈妈”と“故事”という個体の間に“讲'”という「関係」が成立することをあらわす。

第三は三項述語文である。代表的なものを二つあげよう。その一つは「授与」をあらわす。例えば

3. 他还小李十块钱。(彼は李君に十元返す)

これは述語論理で表記すると

3'. 还'(他, 小李, 十块钱)

となって, これは“他”、“小李”、“十块钱”という個体の間に“还'”(返還する)という関係が存在することを表す。もう一つの代表は「取得」を表すものである。次の例を見られたい。

4'. 我买了他一所房子。(私は彼から家を買った)

これも“我”、“他”、“一所房子”という個体の間に“买'”(購入する)という「関係」が存在するので次のように表記する。

4'. 买'(我, 他, 一所房子)(「了」は煩雑になるのでここでは説明しない。)

述語論理の表記は「関数」とその後の()の中の項によって表記されるだけで, その項の意味については考慮する必要はないのだが, 自然言語の立場から言い換えておこう。

まず「一項述語文」は「関数」が自動詞の動作・行為で, 項は動作主であ

る。次に「二項述語文」では「関数」は他動詞の動作・行為で、第一項は動作主、第二項は対象物である。さらに「三項述語文」の「授与」を表すものは「関数」が授与動詞の動作・行為で、第一項は「動作主」、第二項は「対象物の着点」、第三項が「対象物」である。また「取得」を表すものは「関数」が取得動詞の動作・行為で、第一項は「動作主」、第二項は「対象物の起点」、第三項が「対象物」である。

本稿では三項述語文が重要な役割を果たす。述語論理表記は一見、単純に見えるが、実際は複雑な約束がある。関数の位置に生起する動詞は「その動詞によって表される動作・行為をしている個体の集合」と解釈され、その結果直後にくる「項で表される個体」と同質のものとして、いわば「計算」の基礎を作っているのである。自明のことであるが「動作・行為」そのものでは「個体」と質が異なるが、「個体の集合」と「個体」は「個体」という点で同質だからである。

従って先の4の例で言えば、“买”という動作をしている「個体の順序付き三つ組み」の中に<我，他，一所房子>という「個体の順序付き三つ組み」が存在している場合にのみ4の文は成立するのである。後述するように第三項は定数ではなく、関数の値が代入されることもあるので、単純な原則による複雑な論理式を記述する技術が必要である。

2. ヴォイス（使役、処置、受身）の述語論理

ヴォイスについては様々な考えがあるが、ここでは広くヴォイスをとらえる考えに従い、「使役」、「処置」、「受身」を総称する用語とする。次に「使役」、「処置」、「受身」の意味を表す構文について簡単に説明しておこう。まず「使役」について述べる。次の文は

1. 我 让 他 走。

「私が彼にさせる」と「彼が出かける」と「私が彼が出かけることをさせる」という三命題を含んでおり、この文の意味表示にはこの三命題を表現しなければならない。この文の述語論理表記は次のようになる。(())のみでは読みに

くいので { }, [], 【 】 を内側から順に使用した。)

1'. 让' { 我 , 他 , 走'(他) }

この表記の中で“让' { 我 , 他 ”は「私が彼にさせる」を表し, “走'(他)”は「彼が出かける」を表し, “让' { 我 , …, 走'(他) }”は「私が彼が出かけることをさせる」を表している。ここで特徴的なことは“让' ”という関数の第三項に“走' ”という関数の値「走'(他)」が入っていることである。つまり「使役」構文の第三項には埋め込まれた文の述語論理表記が来るということである。次の例も同様である。

2. 我叫他吃饭。

この文は「私が彼にさせる」と「彼がご飯を食べる」と「私が彼がご飯を食べることをさせる」という三命題を含んでいるので, それを考慮して述語論理表記すると次のようになる。

2'. 叫' { 我 , 他 , 吃'(他 , 饭) }

ここでも“叫' ”という関数の第三項に“吃' ”という関数の値が入っていることに注目されたい。ここで“項”の概念について説明しておこう。“項”は広く“項構造”として論じられるのでここでも“項構造”について論じる。「項構造」は主に第一階述語論理 (first-order predicate calculus) で用いられる基本的データ表現「項」によって表現されるデータ構造のことである。「項」は次のように定義される。

「項 (term)」とは, 次のいずれかの形を取るデータ構造である。

(1) 定数、数、変数はいずれも項である。これらを単項とよぶ。

(2) f を n 引数の関数名とし, t_1, t_2, \dots, t_n が項であるならば, $f(t_1, t_2, \dots, t_n)$ も項である。特にこのような項を複合項と呼ぶ。(『言語の数理』: 66)

のように定義されている。この説明は「単一化文法」のデータ構造を論じた部分の記述であるが、(1)の数と変数が本稿には必要ないがそれを除けばそのまま本稿の述語論理表記に適用される。

第二に「処置」を表す構文を論じる。「処置」という術語は必ずしも具体的な処置でない事態を表すこともあるので用語としては適切ではないが、ここでは「…をもたらす」という意味で広く「授与」の意味を表すものの総称として用いる。次の例は

1. 他把电脑修好了。

「彼はコンピュータに処置した」と「彼がコンピュータを修理した」と「彼は彼がコンピュータを修理したことをもたらした」の三命題を含んでいる。これを考慮して述語論理表記すると次のようになる。

1'. 把' { 他 , 电脑 , 修好了' (他 , 电脑) }

ここでは“把' { 他 , 电脑 ”が「彼はコンピュータに処置した」を，“修好了'(他 , 电脑)”が「彼がコンピュータを修理した」を，“把' { 他 , … , 修好了'(他 , 电脑) }”が「彼は彼がコンピュータを修理したことをもたらした」を表している。ここでも“把' ”という関数の第三項に“修好了'(他 , 电脑)”という関数の値が入っている。

第三は「受身」構文である。「受身」という術語はここでは「…をこうむる」という意味で広く「取得」の意味をあらわすものの総称として用いる。次の例を見られたい。

1. 我被他们压在地上。(李临定1986:210)

この文は「私が彼らから被った」と「彼らが私をおさえつけた」と「私が地面につく」と「私は彼らが私を地面に押さえつけることを被った」という四命題

を含んでいる。従ってこの文の述語論理表記は次のようになる。

1'. 被' { 我 , 他们 , 压' (他们 , 我) & 在' (我 , 地上) }

ここで“被' { 我 , 他们 ”が「私が彼らから被った」を, “压' (他们 , 我) ”が「彼らが私をおさえつけた」を, “在' (我 , 地上) ”が「私が地面につく」を, “被' { 我 , … , 压' (他们 , 我) & 在' (我 , 地上) } ”が「私は彼らが私を地面に押さえつけることを被った」を表している。ここでは“被' ”という関数の第三項に“压' (他们 , 我) ”という関数の値と“在' (我 , 地上) ”という関数の値の連言が入っている。この第三項は「彼らが私をおさえる」ことと「私が地面についている」ことが同時に成立していることを意味している。

ここでわかることは「使役構文」は“让' ”や“叫' ”が関数を表し, 「処置構文」は“把' ”が関数となり, また「受身構文」は“被' ”が関数として機能していることである。さらに, いずれの構文もその関数の第三項に関数の値が入っていることである。つまり, これらの構文は述語論理による表記において, その項の中に複合項を有するということである。

3. 把構文における「給」の意味と論理

ここでいう「把構文における「給」」とは“火把姑娘的脸给烧伤了。(火で娘の顔がやけどしてしまった)”という文における「給」をさす。この「給」については従来からの共通の認識として, 「① あってもなくても良い。② “給”の後にはいかなる成分も入らない。③ “給”の役割は処置の意味を強めることである。(王彦杰1999:345)」と記述されている。

王1999はその表題「“把……给”句型中の助詞“给”の使用条件とその役割」からわかるように, 把構文における「給」について詳細に述べた論考である。その豊富な用例と周到な論の展開は把構文における「給」について多くの事実を明らかにした。王1999の論考のすべてをここで吟味するわけにはいかない

が、その用例をもとに「給」がある場合とない場合の全文の意味の違いを述語論理表記を用いて、明らかにしていこう。

沈阳1997によれば「把構文の意味は動作、行為による処置、支配、影響によって、人や事物（NPb）に対してある種の結果あるいは状態をもたらすことである。」であり、さらにそれを次の二つの部分に分けている。「意味1 = NPbはある種の処置或いは支配を受ける；意味2 = NPbはそこで述べられる結果或いは状態を具有する」と述べる。王彦杰1999はこれを受けて、「“把……給”文型の意味の重点は先の意味2，つまり結果の意味を表すことにある。この結果の意味を表すのは文中のV（正確にはVP）である。」（王彦杰1999:346）と述べる。

具体例を挙げよう。次の例は把構文である。

1. 火 把 姑娘的脸 烧伤了。

この文は「火が娘の顔にもたらした」と「火が娘の顔をやけどさせた」と「火が火が娘の顔をやけどさせることをもたらした」という三命題を含んでいる。このことを考慮して述語論理で表すと次のようになる。

1'. 把' { 火 , 姑娘的脸 , 烧伤了' (火 , 姑娘的脸) }

ここでは“把' { 火 , 姑娘的脸 ”が「火が娘の顔にもたらした」を，“烧伤了' (火 , 姑娘的脸) ”が「火が娘の顔をやけどさせた」を，“把' { 火 , … , 烧伤了' (火 , 姑娘的脸) } ”が「火が火が娘の顔をやけどさせることをもたらした」を表している。1の文は次の原文から「給」を取り除いたものであった。

2. 结果 , 塌下房椽上边的火 , 把 姑娘的脸 给 烧伤了。

（結局、梁から崩れ落ちた火が娘の顔を火傷させてやってしまった。）

王彦杰1999によれば2の意味の重点は「娘の顔がけがをした」ことにあるのであり、別に「焼いた」わけではないという（王彦杰1999:347）。王1999はさらに次の例を挙げる。

3. 金秀偷眼看看药方子，心里一阵哆嗦，原来老爸爸居然把最主要的一味“北芪”给写丢了。

（金秀はそっと処方箋を見て、どきっとした。なんと老いた父は一番大事な「キバナオウギ（漢方薬）」を抜かしてやってたんだ。）

これも王1999によれば「書く」という動作は実行されてはいないのである。

王1999は「“把……給”文型の意味の重点はある種の結果を表すことにある（王1999：346-348）」と述べているが、これは把構文そのものの特徴であって、必ずしも“給”によってもたらされる意味とは言えない。“給”が加わることによって表される意味はむしろ後述される「自主性」や「情緒化」や「意外性」と関わるものであると思われる。それについては後に論じるが、ここでは「自主性」や「情緒化」といった意味がなぜ生じるかということを考えておきたい。日本語で「娘の顔を火傷させる」と「娘の顔を火傷させてやる」の二つの文の意味の違いを考えてみると、前者が客観的な叙述であるのに対し、後者は主観的な意味が強い。それは「…やる」という単語によって生じている。「やる」という動詞は本来の意味は「与える」ということであり、論理的にはその対象に「娘の顔を火傷させる」のような命題表現をとることはない。にもかかわらず「…やる」を加えた文が成立しているのは「与える」という動詞の本来の意味から派生したと考えられる「脅迫」のような主観的な意味をもたせているからであろう。

“把……給”文型における「給」の表す意味も「ある種の主観」を表すものと考えられるが、それも前述の日本語の「…やる」の例と同様に、本来の動詞の「給」の表す意味から派生したものと考えられる。王1999が「“給”の役割は把構文の結果の意味を強め、把構文の付加的意味を際立たせることにある。（王1999：352）」と述べていることもある種の主観的な意味を表すという本稿の

考えを支持するものである。

“把……給”文型における“給”が主観的な意味を表示するといっても、基本的な意味構造は“給”の本来の「…が…に…を与える」という意味を離れることはないと考えられる。つまり“給”は三個の項を有する関数であると考えるのである。この立場から先の2と3の文を議論の中心をなす成分をぬきだして、述語論理で表記すると次のようになる。

2'. 把'[火, 姑娘的脸, 给'{ 火, 姑娘的脸, 烧伤了'(火, 姑娘的脸)}]

3'. 把'[老爸爸, 北芪, 给'{ 老爸爸, 北芪, 写丢了'(老爸爸, 北芪)}]

2' と 3' では「把'」という関数の第三項、つまり“给'{ 火, 姑娘的脸, 烧伤了'(火, 姑娘的脸)}”と“给'{ 老爸爸, 北芪, 写丢了'(老爸爸, 北芪)}”が王1999のいう把構文の付加的意思を際立たせている部分である。朱德熙1982が「“給”は与事を導入する前置詞 (p. 179)」と述べているが、関数“給”の第二項“姑娘的脸”、“北芪”がまさにその「与事」にあたるものである。ここで重要なことは2' においては“把'”という関数の第二項である“姑娘的脸”は“把”(…をもたらす)の「与事」であり、“給'”という関数の第二項である“姑娘的脸”は“給”(…やる)の「与事」であることである。“把'”(…をもたらす)も“給'”(…やる)も広い意味で「授与」を表す述語であるが、二つの述語が共存しているのは後者“給'”が前者“把'”の第三項に関数の値の一部として代入されているからである。また“把'”が客観的な「授与」を、“給'”が主観的な「授与」を表す一種の分業によって文が成立しているものと解釈される。次に“給”の表す主観的な意味を詳しく検討する。

3.1 “把……給”文型の“給”の表す意味と論理

ここでは“給”の表す意味を王1999をヒントに [自主性]、[情緒性]、[意外性]、[被害性] 等にかけて考えるが、その前になぜこのような意味を表示する

ために“給”が必要であるのかについて、その理由を述べておこう。

[自主性]、[情緒性]、[意外性]、[被害性]等の意味特徴は「心理活動」を表す。「心理活動」は[積極性]、[不満／恨み／怒り]、[意外性／非常識]、[迷惑]等の形で現れるが、その抽象的活動は「起点」が主語（または前文）で「着点」が“把”の後の名詞句になる。ここで重要なことは「心理活動」には必ずそれによって生じた感情の行く先、つまり[着点]が存在しなければならないということである。

しかしながら、把構文の主語や“把”の後の名詞句は把構文という、一種の広い意味での「授与」を表す客観的な文成分であって、“把”の後の名詞句は「授与されるものの着点」であり、先に述べた「心理活動の産み出す感情の着点」ではない。[自主性]、[情緒性]、[意外性]、[被害性]等の主観的な意味はもちろん把構文の主語と“把”の後の名詞句によって産み出されることは間違いないのだが、このことは別の場所において記述する必要がある。それを記述するのは“把”という関数の第三項においてである。ところがこの第三項は通常は一項または二項の関数の値、つまり $f(a)$ または $f(a, b)$ である。これは通常は「aがfする」あるいは「aがbをfする」という関係であって、ここに着点を表示することはできない。ならばどうするか。方法はただ一つ、 $f(a, b, c)$ という関数を表すことの出来る述語を用いるしかない。この関数によって「aがbにcをfする」という値を取り出し、そこにbという着点を導き出すことができる。その述語に適合するのはいわゆる「授与動詞」であるが、その代表が“給”である。つまり、“給”は“把”関数の第三項に心理的感情の着点を表示するために用いられているのである。“你给我死去！”や“你给我滚！”における“給”が[叱責]の気持ちを含む命令文に用いられる(朱1982: 180) 事実も“把……給”構文における“給”の主観性をささえるものである。

3.1.1 “把……給”文型の“給”が[積極性]を表すもの

次の文の“給”は動作主の「第一夫人」の積極的な感情を表している。その

感情は「第一夫人が意識的に追い出す」という行為を通して翠お嬢さんに向けた〔積極性〕である。

1. 大太太趁机就把翠姑娘 给 轰出去了。(王彦杰1999:349の引用例)
(第一夫人はチャンスとばかりに翠お嬢さんを追い出してやった。)

この文の意味を必要な成分のみを取り出して述語論理表記すると

- 1'. 把'[大太太 , 翠姑娘 , 给]{大太太 , 翠姑娘 , 轰出去了}'(大太太 , 翠姑娘))]

ここでは“把'[大太太 , 翠姑娘]”が「第一夫人が翠お嬢さんにもたらした」の意を, “给'{大太太 , 翠姑娘 }”が「第一夫人の翠お嬢さんにたいする「～してやる」という積極性」の意味を, “轰出去了'(大太太 , 翠姑娘)”が実際の行為を表している。そこで全体では「第一夫人が翠お嬢さんに対し, 「積極性」と「実際の行為」を与えることをもたらした。」という意味を表すことになるのである。次の例も同様である。

2. 不消半天工夫 , 我们就 把 五亩麦子 给 割完了。(王彦杰1999:350の引用例)
(半日もたたないうちに, 私たちは五ムーの麦を刈り終えてやった)

この文についても必要な成分を取り出して述語論理表記してみる。

- 2'. 把'[我们 , 五亩麦子 , 给]{我们 , 五亩麦子 , 割完了}'(我们 , 五亩麦子))]

“給'”の表すのは「五ムーの麦を短い時間で刈り終えてやる」という私たちの

「積極性」であり、それは“給”{我们，五亩麦子”の部分で表記されている。

3.1.2 “把……給”文型の“給”が[不満／恨み／怒り]を表すもの

次の文は動作主“小伙子”の動作の受け手“上面印着的”××矿“这几个字”に対する[不満]の感情を“給”が表している。

1. 一来二去，有的小伙子开始恨身上这件工作服了，变着法儿也得把上面印着的“××矿”这几个字给抹了。(王彦杰1999:350の引用例)

(だんだんと若者の中には身につけている作業着がいやになって、何とかして上にプリントされた“××”鉱山の字を消してやろうという者が出始めた。)

この文についても必要な部分を取り出して、述語論理で表記すると

1'. 把'[有的小伙子，上面印着的“××矿”这几个字，给'{有的小伙子，上面印着的“××矿”这几个字，抹了}'(有的小伙子，上面印着的“××矿”这几个字)']

ここでは“把”[有的小伙子，上面印着的”××矿“这几个字”が「若者が上にプリントされた“××”鉱山の字にもたらず」の意を，“給”{有的小伙子，上面印着的”××矿“这几个字”が「若者の字を消してやろう」という[不満]の気持ちを表し，“抹了”(有的小伙子，上面印着的”××矿“这几个字)”が「若者が字を消してしまう」という実際の行為を表している。そして全体では「若者が上にプリントされた“××”鉱山といういくつかの文字に対して、その不満の原因となるいくつかの文字に消すという行為をしてやることをもたらした」という日本語になおすとまわりくどい意味を表す。

次の例は“給”が[恨み]の感情を表す文である。

2. 路德暴跳如雷，在要进更衣室进行中场指导时，他对我说：“我非得把他给撤下来不可。”(王彦杰1999:350の引用例)

(路徳は激しく怒って、更衣室でハーフタイム指導をしようとする時、私に「わしはあいつを引っ込めてやらないと気が済まない」と言った。)

この文を必要な部分を取り出して、述語論理表記すると次のようになる。

2' 把'[我，他，给'{我，他，撤下来}'(我，他)]

“把'[我，他”が「わしがあいつにもたらした」の意を，“给'{我，他，撤下来}'(我，他)”が「わしがあいつ【に】わしがあいつを引っ込めること【を】やる」の意を，表し，全体で「わし【が】あいつ【に】対し，わしがあいつを引っ込めてやること【を】もたらした」という意味を表す。ここでは“給”が「わしの彼に対する[恨み]の感情」を表す。次は“給”が[怒り]の感情を表す例である。

3. 迪卡普里尼非但不接受这个名字，一怒之下，还把经纪人给辞退了，其独立不羁的性格可见一斑。(王彦杰1999:350の引用例)

(デカプリニはこの名を受け入れないだけでなく、腹を立てると、さらに仲買人をも辞めてやった。彼の頑固な性格の一斑がわかった。)

この文も必要な部分を取り出して、述語論理表記してみよう。

3'. 把'[迪卡普里尼，经纪人，给'{迪卡普里尼，经纪人，辞退了}'(迪卡普里尼，经纪人)]

ここでは“把'[迪卡普里尼，经纪人”が「デカプリニが仲買人という職にもたらした」の意を，“给'{迪卡普里尼，经纪人，辞退了}'(迪卡普里尼，经纪

人) }” が「デカプリニが仲買人という職【に】対し，デカプリニが仲買人を辞めてしまうこと【を】やる」の意を，“辞退了’(迪卡普里尼，经纪人)” が「デカプリニが仲買人を辞めてしまう」の意を，そして全文では「デカプリニが仲買人の職【に】対して，デカプリニが仲買人という職に，デカプリニが仲買人を辞めてしまうことをやること【を】，もたらした。」の意味を表すことになる。“給”はデカプリニの[怒り]の感情が仲買人という職にまで及んだことを表している。

上記三例に共通している特徴は，1では“恨”という動詞が，2では“暴跳如雷”という動詞句が，3では“怒”という動詞が先に出現して，談話論の視点から“給”に込められる[不満]、[恨み]、[怒り]の感情を予告していることである。

3.1.3 “把……給”文型の“給”が[意外性]を表すもの

ここでも王1999の用例について，それを述語論理表記することによって，“給”によって表現される感情を取り出してみよう。次の文は「金枝」の「このこと」に対する反応が「予想外」であったという[意外性]を含んでいる。

1. 谁承想，金枝这事一来，就把这事给岔开了。(王彦杰1999:350の引用例)

(予想外にも，金枝はこのことが起こると，それをうやむやにしてしまつてやった。)

この文の必要な部分を取り出して述語論理表記しよう。

1’. 把’[金枝，这事，给’{金枝，这事，岔开了’(金枝，这事)}]

“把’[金枝，这事”が「金枝がこのことにもたらした」の意を，“给’{金枝，这事，岔开了’(金枝，这事)”が「金枝がこのこと【に】金枝がこのことを

うやむやにすること【を】やる」の意を表し、全体で「金枝がこのこと【に】対し、金枝がこのことをうやむやにしてやること【を】もたらした」という意味を表す。ここでは“給”が「金枝のこのことに対する対応では話し手が予想もしなかった〔意外性〕の感情を表す。次も“給”が〔意外性〕の感情を表す例である。

2. 有一本……《雷雨》，写什么打雷雨下雨天儿，一家子搞破鞋，当哥哥的还把亲妹妹给糟蹋了。这叫什么事儿？（王彦杰1999:350の引用例）

（『雷雨』という小説は、雷雨の日に、家で遊び狂って、おまけに兄が実の妹をだいなしにしてやったことなんかを描いている。なんと言うことだ。）

この文も必要な部分を取り出して、述語論理表記してみると

2'. 把'[当哥哥的，亲妹妹，给]{当哥哥的，亲妹妹，糟蹋了}'(当哥哥的，亲妹妹)]

上のようになる。ここでは“把'[当哥哥的，亲妹妹”が「兄が実の妹にもたらした」の意を，“给'{当哥哥的，亲妹妹，糟蹋了}'(当哥哥的，亲妹妹)”が「兄が実の妹【に】対し，兄が実の妹をだいなしにしてしまうこと【を】やる」の意を，“糟蹋了'(当哥哥的，亲妹妹)”が「兄が実の妹をだいなしにしてしまう」の意を，そして全文の“把'[当哥哥的，亲妹妹，给'{当哥哥的，亲妹妹，糟蹋了}'(当哥哥的，亲妹妹)]”が「兄が実の妹【に】対して，兄が実の妹に，兄が実の妹をだいなしにしてしまうことをやること【を】，もたらした。」の意味を表すことになる。“給”は「兄が実の妹をだいなしにする」という「反倫理性」の「意外性」を話し手が感じていることを表す。

上記二例も談話論の視点から言えば，1は“谁承想”(予想外のことに)，2は“搞破鞋”(売春婦と遊ぶ)の部分が後の“岔开了”、“糟蹋了”という行為に対する話し手の感情を予告している。

3.1.4 “把……給”文型の“給”が[損害性]を表すもの

つぎの二文は“給”が「損害」の意味をあらわすものである。

1. 为了安排你参加夏令营，把三斧给顶啦。(王彦杰1999:350の引用例)
(君がサマーキャンプに行く段取りをするために、三斧に面倒を見させてやった。)

この文を不要な成分を除いて、述語論理表記をすると

- 1'. 把'[你，三斧，给]{你，三斧，顶了'(三斧，你)}]

となる。ここでは“把'[你，三斧”が「君が三斧にさせた」の意を，“给'{你，三斧，顶了'(三斧，你)”が「君が三斧【に】三斧が君の面倒を見ること【を】やる」の意を表し、全体で「君が三斧【に】対し，君が三斧に三斧が君の面倒をみてやること【を】させた」という意味を表す。ここでは“給”が「三斧にとって君の面倒をみることは三斧の立場からは「迷惑」である」という[損害性]の感情を表す。次も“給”が[損害性]の感情を表す例である。

2. 您二位这一好心办好事可好，倒把我盼了多少年的好事儿给搅啦。(王彦杰1999:350の引用例)
(お二人のこの善意で善行はまことに結構だが，私が長年願っていた楽しみをだいなしにしてやった。)

この文も必要な部分を取りだして述語論理表記してみよう。

- 2'. 把'[二位，我盼了多少年的好事儿，给]{二位，我盼了多少年的好事儿，搅了'(二位，我盼了多少年的好事儿)}]

ここでは“把”[二位，我盼了多少年的好事儿]が「お二人が私が長年願っていた楽しみにもたらしした」の意を，“給”{二位，我盼了多少年的好事儿，搅了’(二位，我盼了多少年的好事儿)}が「お二人が私が長年願っていた楽しみ【に】お二人が私が長年願っていた楽しみをだいなしにすること【を】やる」の意を表し，全体で「お二人が私が長年願っていた楽しみ【に】対し，お二人が私が長年願っていた楽しみをだいなしにしてやること【を】させた」という意味を表す。ここでは“給”が「お二人（正確にはお二人の善意による善行）は「私が長年願っていた楽しみ」にとって私の立場からは「迷惑」であるという[損害性]の感情を表す。

つぎに“給”が生起しえない把構文について考える必要があるが，それはしばらくおいて，先に被構文に“給”が用いられる例を考えてみよう。

4. 被構文における「給」の意味と論理

「生粋の北京語ではふつう“給”だけで「受身」を表すことはない。“給”が受身文に使われる場合はいつも“被”、“叫”、“让”と組み合わせられて“被（叫／让）……给”文型を作る（李珊1994:218）。」と述べられていることからわかるように，一部の作家の作品を除いて，北京語では“給”だけで受身を表すことはなく，“被（叫／让）……给”の形式をとる。

この“被（叫／让）……给”の文型における“給”の役割に対しては研究者によって見解がことなる。その一つは“表赐予”（賜るの意）（黎锦熙、刘世儒《汉语语法教材》）であり，第二は“加强被动语势”（受動の意味を強める）（王还《把字句和被字句》）であり，第三は“与事”を導入する（朱德熙1982《语法讲义》）である（李珊1994:221-222）。李珊は前記の三者の見解の違いの大きいことを深く研究に値すると述べているが，ここで重要なことは黎锦熙・刘世儒と朱德熙はいわゆる「授与」の意味を持つことを異なる表現で表し，王还は主観的な意味を“給”が担うことを指示している点である。この「授与」と「主観性」が“給”の果たす役割と密接に関わると考えられるが，そのこと

を李珊1994の用例を参考に述語論理表記を通して明らかにしていこう。

次の文において“給”は省略することができる。

1. 那些钱又教他们 给 吃了 (老舍)(李临定1986:207引用例)

(その金はまたしても彼らによって使ってやられてしまった)

日本語訳は“給”の働きを明確にするためにやや不自然な形になった。この文は「その金が彼らから(被害を)受けた」、「彼らはその金に(行為を)してやる」、「彼らはその金を使ってしまう」という三個の命題を含んでいる。このことを考慮して、述語論理表記すると次のようになる。

1'. 教'[那些钱, 他们, 给]{他们, 那些钱, 吃了}(他们, 那些钱)]

ここでは“教”[那些钱, 他们]が「その金が彼らから(被害を)受けた」の意を, “给”{他们, 那些钱, 吃了}(他们, 那些钱)}が「彼らはその金に(行為を)してやる」の意味を, また“吃了”(他们, 那些钱)が「彼らはその金を使ってしまう」の意を表し, 全体で1の訳文のような意味になる。“教”という関数は「～られる」、「被る」、「受ける」等の意味を表すが, これは広い意味での「取得」を表すと考えることができる。把構文が広い意味で「授与」を表すこととちょうど反対の現象である。従って被構文の基本的構造は「～ガ～カラ～ヲ 被る」という形式をとると考える。李临定1986は1の文の“給”は省略できる(p.207)と述べているがその場合の意味の違いを述べていない。そこで“給”を除いた文について考えてみよう。それを2とする。

2. 那些钱又教他们吃了。(その金はまたしても彼らに使われた)

この文を必要な部分を取り出して述語論理表記すると次のようになる。

2'. 教'[那些钱, 他们, 吃了}(他们, 那些钱)]

この式は「その金【が】彼ら【から】、彼らはその金を使ってしまったこと【を】被った」という典型的な被構文の意味構造をとる。従って2の文は単純な被構文であって、話者の主観は入っていないと考えることができる。これに対して1の文は被構文の意味と同時に「動作の積極性」と「対象物の被害性」をより強く表現している。このことから1は主観性を含んだ被構文と考えることができる。ここで1'と2'の述語論理表記を使って1と2の文の違いを考えてみよう。

2'を1'と比較すると1'は“給’{他们，那些钱，……}”の部分が2'よりも多い。李珊、李临定のどちらもこの“給”の役割や意味を述べていない。ここでは前述の「授与」と「主観性」の意味を表すと考える。主観性は「～してやる」という日本語からもわかるが「動作主の積極性」を表す。ところが「その金の立場」から考えると動作主が積極的であればあるほど「使われる」わけで、その点から言えば「被害性」を表すとも言える。「積極性」や「被害性」は一種の「心理活動」である。心理活動にはその活動のターゲットが存在する。そのターゲットは“那些钱”であるが、2'からは“教’[那些钱]”の“那些钱”は被構文の主語であり、格役割は存在しない。また“吃了’(他们，那些钱)”の“那些钱”は「動作の対象物(受事)」である。従って2'では心理活動のターゲット、つまり「与格(与事)」は存在しないのである。

心理活動を表記するには朱德熙1982の主張する「与事」を導入するための“給”の助けが必要なのである。そこで1'を見ていただきたい。1'では“给’{他们，那些钱，吃了’(他们，那些钱)}”において、関数“给”の第二項に“那些钱”が存在し、これが「与格(与事)」の位置で、意味の上では「心理活動のターゲット」に当たる。言うまでもないことであるが“吃了’(他们，那些钱)”の“那些钱”は「動作の対象物(受事)」である。

以上の議論から被構文において“給”が用いられる時には「積極性」や「被害性」という主観的な心理活動が含まれ、それは「被構文の先頭の関数の第三

項の場所」に「三個の項を持つ“給”関数の値」が代入されることで述語論理表記されることがわかった。

前述の議論をふまえて、次に李珊1994の用例を具体的に検討していこう。

4.1 “被……給”文型の“給”が「動作・行為の積極性」と「対象物の被害性の増大」を表すもの

次の文は「彼らの良心」が「丁務源」によって「蝕まれる」という意味を表す被構文である。被構文は本来〔被害〕を表すものであるから「対象物の被害性」は“給”がもたらすものではない。しかし、丁務源が積極的に「蝕む」ほど「被害」は増大する。従って「～してやる」といった日本語に代表される「動作の積極性」は同時に「対象物の被害の増大」をもたらすと解することができる。

1. 但是他们的良心已被 丁务源 给 蚀尽。(老舍)(李珊1994:218引用例)

(しかし、彼らの良心は丁務源によってすっかり蝕んでやられた。)

“給”の表す意味を明示するために日本語訳は不自然になったが、意味は理解できる。ここで重要なことは“給”の役割を「動作の積極性」を表すと解釈することにより、そのことにより同時に「対象物の被害が増大」することになることである。これが王还が「“加强被动语势”(受動の意味を強める)(《把字句和被字句》)」と述べたことの真意であると思われる。さて、ならば「動作の積極性」をどのように意味表示するか？それが問題である。すでに述べたことであるが「動作の積極性」は「心理活動」の一種であり、心理活動にはその「ターゲット(与格)」が必要とされる。これが“与事”を導入する(朱德熙1982《语法讲义》)」という記述の意味するところと思われる。「与格」を導入するには、これもすでに前述したことであるが、三項を持つ関数、つまり「授与動詞」が必要である。その授与動詞には1で使用されている“給”を使うことができる。以上の議論をふまえて1の文を不用な部分を除いて述語論理表記

してみよう。

1'. 被'[他们的良心，丁务源，给'{丁务源，他们的良心，蚀尽'(丁务源，他们的良心)}]

ここで“被'[他们的良心，丁务源”は「彼らの良心が丁務源から被った」の意を，“给'{丁务源，他们的良心，蚀尽'(丁务源，他们的良心)}”は「丁務源が彼らの良心【に】丁務源が彼らの良心をすっかり蝕むこと【を】やる」の意を表し，全体で「彼らの良心は丁務源【から】「丁務源が彼らの良心に丁務源が彼らの良心をすっかり蝕むことをやる」こと【を】被った」という意味になる。周知のように文の意味表記は一文の含むすべての意味を命題の形式で表記しなければならない。それだけであれば「文の意味は部分文の意味を羅列する」だけに終わる。さらに「部分文がどのように結びついているか」をも表示しなければならない。1'の文は“被'”関数の第三項に“给'”関数の値が入り，“给'”関数の第三項にさらに“蚀尽'”関数の値が代入されることを示している。これにより部分文の意味がどのように結合しているかがわかる。「文の意味はそれを構成する部分の意味とそれがどのように結びついているかで決定される」という構成性の原理がここでも働いていることがわかる。

次に具体的な例を検討していこう。

2. 刚才他 被 十成的正气 给 压得几乎找不出话说。(老舍)(李珊1994 :218 引用例)

(先ほど彼は十成の剣幕に圧倒されてほとんど話すべき言葉も探しだせない。)

この文を不要の部分を除いてやや簡略化した述語論理表記をすると次のようになる。

2'. 被'【他，十成的正气，给' [十成的正气，他，压' {十成的正气，他} & 几乎' {找不出' (他，话) & 说' (他，话)}】】

“被'【他，十成的正气”が「彼が十成の剣幕で被る」の意を，“给' [十成的正气，他”が「十成の剣幕が彼に～してやる」の意を，“压' {十成的正气，他}”が「十成の剣幕が彼を圧倒する」の意味を表す。さらに“几乎' {找不出' (他，话) & 说' (他，话)}”は“找不出' (他，话) & 说' (他，话)”が「彼は言葉を探し出せない」と「彼が言葉を話す」の二命題の連言を表し，この二命題が同時に成立しなければならないことを意味する。“几乎'”はその二命題の連言を項にとる関数で「ほとんど～せんばかり」の意味を表す（“得”についても述語論理表記できるがここでは煩雑になるので省略する）。

次に“叫”の例を二個見ておこう。

1. 好家伙，用你的银子办满月，我的老儿子会叫你给骂化了！（老舍）（李珊 1994:218 引用例）

（へえ，おまえさんの金で赤ん坊の満一ヶ月の祝いをやれば，わしの末息子はきとおまえさんに死ぬほど罵ってやられるだろう。）

“給”の意味を明示するために不自然な日本語になったが，意味はわかる。これを不要な部分を除いて述語論理表記すると次のようになる。

1'. 叫' [我的老儿子，你，给' {你，我的老儿子，骂化了' (你，我的老儿子) }]

ここでは“叫' [我的老儿子，你”が「わしの末息子がおまえさんから被る」の意を，“给' {你，我的老儿子”が「おまえさんがわしの末息子に（行為を）してやる」の意を，全体で「わしの末息子【が】おまえさん【から】おまえさんがわしの末息子におまえさんがわしの末息子を死ぬほど罵ってやること

【を】被る」という意味を表すことになる。

2. 您的二兄弟 叫 巡警 给 拿去啦！（老舍）（李珊1994:218 引用例）

（あなたの二番目の弟は巡査にしょっ引いて行ってやられたよ）

この文の日本語も不自然になったが，“給”の意味を明示したためである。これも必要な成分をのみを述語論理表記すると次のようになる。

2'. 叫'[您的二兄弟, 巡警, 给' { 巡警, 您的二兄弟, 拿去了' (巡警, 您的二兄弟) }]

ここでは“叫'[您的二兄弟, 巡警”が「あなたの二番目の弟が巡査から被った」の意を，“给' { 巡警, 您的二兄弟”が「巡査があなたの二番目の弟に（行為を）してやる」の意を，全体で「あなたの二番目の弟【が】巡査【から】巡査があなたの二番目の弟に巡査があなたの二番目の弟をしょっ引いて行ってやること【を】被った」の意味を表す。

4.2 “被……給”文型の“給”が「動作・行為の積極性」と「対象物の属性に対する働きかけ（影響）の増大」を表すもの

「対象物」が人間とかかわらない無生物の場合にはその属性，次の例の1では[被所属性]、2では[邪悪性]、3では[秘密性]に対する[働きかけ（影響）の増大]が存在すると考えることができる。例を見ていこう。

1. 大姐婆婆向来不赠送别人任何果子，因为她从前种的白枣和蜜桃什么的都叫她给瞪死了。（老舍）（李珊1994引用例）

（お姑さんは従来から他人に果物をあげない。というのは彼女が以前育てたナツメや水蜜桃などはみんな彼女からしっかりと見張ってやられていたからだ。）

この文は字面上は「見張る」だが実際の意味は「自分が食べたくて誰にもやりたくない」という意味である。ここでは“給”は彼女の「見張る」という行為が積極的であればあるほど、「ナツメや水蜜桃など」をあげるのが「惜しくなる」という、対象物の立場から言えば「被所属性」が増大する意味現象を見て取ることができる。不要な部分を除いて述語論理表記すると次のようになる。

1'. 叫' [她从前种的白枣和蜜桃什么的, 她, 给' {她, 她从前种的白枣和蜜桃什么的, 瞪死了' (她, 她从前种的白枣和蜜桃) }]

ここでは“叫' [她从前种的白枣和蜜桃什么的, 她”が「彼女が以前育てたナツメや水蜜桃などが彼女から被った」の意を, “给' {她, 她从前种的白枣和蜜桃什么的”が「彼女が彼女が以前育てたナツメや水蜜桃などに（行為を）してやる」の意を, 全体で「彼女が以前育てたナツメや水蜜桃など【が】彼女【から】彼女が彼女が以前育てたナツメや水蜜桃などに対して, 彼女が彼女が以前育てたナツメや水蜜桃をしっかりと見張ってやること【を】被った」という意味を表す。

2. 歪风邪气, 全 让 她 给 挡住了。(浩然)(李珊1994 : 218 引用例)

(いかがわしさやよこしまな気風はすべて彼女によってしっかりと防いでやられた)

この文では彼女が積極的に防ぐほど, つまり彼女の「行為の積極性」が強いほど「いかがわしいさやよこしまな気風」は抑圧されること, つまり「邪悪性の抑圧の増大」が起こるという意味現象を観察できる。必要な成分を取り出して, 述語論理表記すると次のようになる。

2'. 让' [歪风邪气 , 她 , 给' {她 , 歪风邪气 , 挡住了' (她 , 歪风邪气) }]

ここでは“让' [歪风邪气 , 她”が「いかがわしさやよこしまな気風【が】彼女【から】被った」の意を, “给' {她 , 歪风邪气”が「彼女【が】いかがわしさやよこしまな気風【に】(行為を) してやる」の意を, 全体で「いかがわしさやよこしまな気風【が】彼女【から】彼女がいかがわしさやよこしまな気風に対して彼女がそれをしっかりと防いでやること【を】被った」の意味を表す。

3. 天晓得, 悄悄话 让他 给 听见了。(杜鹏程)(李珊1994 : 218 引用例)

(知るものか。内緒話が彼に聴いてやられるなんて。)

この文では内緒話が彼に聞こえれば聞こえるほど, つまり彼の「聴覚への情報量」が多いほど「内緒話の秘密性の漏洩」が起ること, 即ち「秘密性の漏洩の増大」が生じるという意味現象を見ることができる。この文の不要な部分を除いて述語論理表記する。

3'. 让' [悄悄话 , 他 , 给' {他 , 悄悄话 , 听见了' (他 , 悄悄话) }]

ここでは“让' [悄悄话 , 他”が「内緒話が彼に被る」の意を, “给' {他 , 悄悄话”が「彼が内緒話に(行為を) してやる」の意を, 全体で「内緒話【が】彼【から】彼が内緒話に対して, 彼が内緒話をきいてやること【を】被った」の意味を表す。

5. 「被」「把」「給」の共起する構文の論理式

「被……把……給」文型と「把……被……給」文型は後者が比較的少ない。しかし後者も近代から現在にまで使われている(李珊1994 : 226参照)と述べられている。ここでは前者の例を検討してみよう。次の文は前者の例である。

1. 他 被人 把 眼睛 给 蒙上了。

(彼は誰かに眼を覆ってやられた。――彼は誰かに目隠しされた。)

この文では誰かの彼の眼を覆う動作が「積極的」であればあるほど「彼の眼の視界の抑圧」が強まること、つまり「視界の抑圧の増大」が生ずる。この意味現象は“給”によって発生している。この文は「彼が誰かに被る」、「誰かが彼の眼にもたらず」、「誰かが彼の眼を覆う」という三命題を含まなければならない。このことを考えて次に述語論理表記を試みよう。

1'. 被'【他，人，把'[人，眼睛，给'{人，他，蒙上了'(人，眼睛)}】

ここでは“被'【他，人”が「彼が誰かから被る」の意を，“把'[人，眼睛”が「誰かが(彼の)眼にもたらず」の意を，“给'{人，他”が「誰かが彼に(行為を)してやる」の意を，“蒙上了'(人，眼睛)”が「誰かが(彼の)眼を覆う」の意を表し，全体で「彼【が】誰か【から】，誰かが彼の眼に対して，誰かが彼に，誰かが彼の眼を覆ってしまってもたらずこと【を】被る」という意味を表す。

この文は“被'”関数の第三項に“把'”関数の値が入っている。また“把'”関数の第三項には“给'”関数の値が代入されている。さらに“给'”関数の第三項に“蒙上了'”という二項関数の値が入っている。

以上の議論から「把……給」文型、「被……給」文型、「被……把……給」文型における“給”の意味と統語的な構造が明らかになった。いずれも“給”は“把'”関数、“被'”関数の第三項に“给'”関数の値を代入することにより、与格を明示する役割を果たしているのである。

6. “給”を挿入できない「把構文」

「把構文」には“給”を挿入できないものがある(王彦杰1999: 355-357)。

そのいくつかを取り上げて、なぜ“給”が生起し得ないかの理由を考えてみよう。王彦杰1999は統語形式や意味の違いを根拠に多くの実例をあげて“給”の挿入できない把構文を列挙しているが、なぜ“給”が用いられないかという理由を挙げていない。ここでも三項を持つ関数が重要な役割をするが、それは述語論理表記をさらに深く考えてみると明らかになる。ここでも王彦杰1999の実例をすべて吟味することはできないので、代表的な例を三個のみ分析してみよう。

1. 杨妈把灯放在供桌上, 站在一旁等候吩咐。(王彦杰1999: 356 引用例)
(楊ばあやはランプを供物台に置くと、傍らに立って用務を待った)

この文の把構文の部分を述語論理で表記すると次のようになる。

- 1'. 把' { 杨妈 , 灯 , 放' (杨妈 , 灯) & 在' (灯 , 供桌上) }

ここでは“把' { 杨妈 , 灯”が「楊ばあやがランプにもたらした」の意を, “放' (杨妈 , 灯)”が「楊ばあやがランプを置く」の意を, “在' (灯 , 供桌上)”が「ランプが供物台にある」の意を表す。&は“放'”の関数の値と“在'”の関数の値の連言を, つまりこれらの命題が同時に成立することを表す。全体で「楊ばあや【が】ランプ【に】楊ばあやがランプを置き, 同時にランプが供物台にあること【を】もたらした」の意味になる。単純に形式的に“把'”関数の第三項に“給'”関数の値を代入することは可能である。にもかかわらず, 中国語の母国語話者がそれを受け入れないのはなぜであろうか。もう一度“把'”関数の第三項を見ていただきたい。前の命題は「楊ばあや【が】ランプ【を】置く」で後ろの命題は「ランプは供物台【に】ある」である。これを重なっている後者のランプを削除して一命題に置き換えると「楊ばあや【が】供物台【に】ランプ【を】置いた」となって, これは日本語では「～が」「～に」「～を」という三個の項をとる“置く'”という関数を表している。中国

語に戻ってこれを述語論理表記すると1'は次の1"になる。

1". 把' { 杨妈 , 灯 , 放' (杨妈 , 供桌上 , 灯) }

1"が中国語で成立しないのは“放'”という関数が三個の項をとらないからである。言い換えると“放'”は授与動詞ではないからである。しかし、これは統語形式上の制約であって、意味上は1"の表記には何ら問題はない。ここで「把構文」に“給'”が使用される理由を考えると、それは“把'”関数の第三項に“給'”関数の値を代入して「与事」を明示することであった。そこで1"をもう一度よく観察すると、“把'”関数の第三項には“放'”という関数の値が代入されており、それは三個の項を持っており、しかもその第二項には“供桌上”という「与事」に相当する成分が存在している。つまり、“給'”関数の生起する場所にはすでに“放'”関数が存在し、“給'”の入り込む余地はないのである。このことが1のような「把構文」に“給'”が使われない理由である。次の例を考えよう。

2. 他有主意呀：找根竹竿儿，把 小褂儿穿在竹竿上。（王彦杰1999：356 引用例）

（彼は考えて、竹竿を探すと、その下着を竹竿に通した）

この文を述語論理表記すると次の2'のようになる。

2'. 把' { 他 , 小褂儿 , 穿' (他 , 小褂儿) & 在' (小褂儿 , 竹竿上) }

この文の第三項は「彼が下着を通す」という命題と「下着が竹竿にかかる」という命題でこの二命題を、重なっている後ろの「下着」を削除して、一命題になおすと「彼【が】竹竿【に】下着【を】通す」となる。これを中国語で述語論理表記すると次のようになる。

2”. 把’ { 他 , 小褂儿 , 穿’ (他 , 竹竿上 , 小褂儿) }

この述語論理式は中国語では許容されないが、それは“穿”が三個の項をとる関数ではない、つまり「授与動詞」ではないからである。しかし、そのことは前述の1の例と同様に統語上の制約であって、意味上は問題がない。この式の第三項には三項を持つ“穿”関数があり、その第二項には「与事」に相当する“竹竿上”があつて、もはや「与事」を導入する必要がないから、2の把構文に“給”は生起しないのである。次の3の例を考えてみよう。

3. 他 把 烟蒂 拧到 烟灰缸里。(王彦杰1999:356 引用例)

(彼は吸い殻を灰皿にねじ込んだ)

この文を述語論理表記すると次のようになる。

3’. 把’ { 他 , 烟蒂 , 拧’ (他 , 烟蒂) & 到’ (烟蒂 , 烟灰缸里) }

ここで“把’”関数の第三項には“拧’”関数の値と“到’”関数の値が連言として代入されている。これを重なっている“烟蒂”を削除して一個の関数に直すと“拧’(他, 烟灰缸里, 烟蒂)”となつて、これを3’に代入すると次の3”になる。

3”. 把’ { 他 , 烟蒂 , 拧’ (他 , 烟灰缸里 , 烟蒂) }

この述語論理式も中国語では許容されないが、意味上はこの式において“把’”関数の第三項には“拧’”関数の値があり、さらにその“拧’”関数の第二項には「与事」に当たる“烟灰缸里”(灰皿に)があつて、3”にはもはや「与事」を導入する必要がないため、3の把構文には“給”を挿入できないのである。

7. 結びにかえて

本稿では把構文を三項を持つ“把’”関数と解釈し、その構文に“給”が用いられた場合、“把’”関数の第三項に“給’”関数の値が入ると考えた。そしてその“給’”関数の第二項に「～に」にあたる「与事」を記述することによって“給”によって表される「感情の落ち着き先（ターゲット）」を明示した。

さらに被構文をも三項を有する“被’”関数と見なし、その構文に“給”が使用された場合、“被’”関数の第三項に“給’”関数の値が代入されるとした。ここでもその“給’”関数の第二項に「与事」を記述し、“給”によってもたらされる「動作・行為の積極性」と「対象物への影響の増大」という意味現象の存在の根拠とした。

また“被……把……給”文型について、“被’”関数の第三項に“把’”関数の値が入り、その“把’”関数の第三項にさらに“給’”関数の値が入ると解釈した。

最後に把構文に“給”を挿入することのできない文について、その理由を“把’”関数の第三項に記述された二項を持つ関数の値の連言は意味上は三項を持つ関数に書き換えられ、その三項を持つ関数の第二項に「与事」に相当する成分がすでに存在し、「与事」を導入するための“給”は必要がないからであることを示した。

8. 参考文献

王彦杰 1999 「“把……给” 句式助词“给” 的使用条件和表达功能」, 『汉语速成教学研究』第二辑, 345-359页。北京: 华语教学出版社。

李珊 1994 『现代汉语被字句研究』。北京: 北京大学出版社。

李临定 1986 『现代汉语句型』。北京: 商务印书馆。

朱德熙 1980 『现代汉语语法研究』。北京: 商务印书馆。

朱德熙 1982 『语法讲义』。北京: 商务印书馆。

松本裕治 1999 「言語処理のための文法形式」, 『言語の数理』(言語の科学第八

卷), 41-83頁。東京：岩波書店